

令和元年度長崎北高等学校 学校評価

1 学校評価アンケートで評価が高い項目（4, 3, 2, 1 の4段階評価の平均が3.3以上）

	項目（数値）	前年比
生徒	北高は、朝の10分間読書の時間が十分に確保されている。(3.4)	0
	学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加している。(3.3)	0
	容儀・服装に注意し、あいさつがきちんとできている。(3.3)	0
	下校時間を守り、適切な時間に帰宅している。(3.4)	0
	周囲や相手のことを思いやっで生活している。(3.3)	0
保護者	北高は、容儀・服装指導を適切に行っている。(3.3)	0
	北高で行っている朝の10分間読書は意義がある。(3.3)	0
	子どもは、学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加している。(3.3)	0
	子どもは、適切な時間に帰宅している。(3.4)	0
	子どもは、バスの中など校外でもマナーを守り、周囲に迷惑をかけないように行動している。(3.4)	0
職員	学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加するよう指導している。(3.3)	0
	生徒の疾病や事故に迅速・適切に対応している。(3.4)	-0.1
	学校は、生徒がいつでも学習できるような教育環境を整えている。(3.3)	0
	北高はホームページの更新や北高Newsを通じて適切に広報活動を行っている。(3.3)	0

2 学校評価アンケートで評価が低い項目（4, 3, 2, 1 の4段階評価の平均が2.8以下）

	項目（数値）	前年比
生徒	北高は、わかりやすく質の高い授業を行っている。(2.8)	-0.1
	北高は、学習指導において、生徒一人ひとりの能力に応じた適切な学習指導を行っている。(2.8)	-0.1
	北高は、職業について、生徒に具体的に考えさせる指導をしている。(2.8)	-0.1
	北高の生徒指導の方針に共感できる。(2.8)	-0.1
	北高は、いじめの早期発見や防止に向けて、きちんとした対策や取り組みを行っている。(2.8)	-0.1
保護者	北高は、学習指導において、生徒一人ひとりの能力に応じた適切な学習指導を行っている。(2.8)	+0.1
	北高は、職業について、生徒に具体的に考えさせる指導をしている。(2.8)	0
職員	目指す学校像、育成したい生徒像が明確である。(2.8)	-0.3
	他校にない校風や特色を持っている。(2.8)	-0.3
職員	校務が円滑に推進できるよう、分掌間・学年間の連携がよく図られている。(2.6)	-0.2
	各分掌の内規の見直しが、先を見て適切に行われている。(2.6)	0
	「両道頭揚」の実現を目指し、学業と部活動の両立を目指す活力ある生徒の育成によく努めている。(2.8)	-0.3
	各教科の授業研究により、指導力が向上した。(2.8)	-0.2
	人権・同和教育により、生徒の人権意識を高める事ができている。(2.8)	-0.2
	教科内で学年を超えた連携を図っている。(2.7)	-0.3
	「高大連携インターンシップ事業」は、学校の活性化に寄与できている。(2.3)	-0.7
	生徒に、家庭学習をさせる具体的な方策をとっている。(2.7)	-0.3
	生徒の授業態度は意欲的である。(2.6)	-0.2

清掃活動や教室などの整理整頓に取り組ませ、環境問題への関心を育んでいる。(2.6)	- 0.6
地域や校外機関と連携して教育活動や環境浄化に努めている。(2.8)	- 0.2

3 重点目標とアンケートの状況

(1) 心豊かでたくましい人間力の育成

- ① 切り替えへの働きかけにより、「学習を基軸に据えた部活動との両立」を果たすタフな精神力を育む。
- ② 挨拶、マナー、端正な身なりなどの意識の向上と実践を図り、豊かな品性、北高生としての自覚と誇りを育む。
- ③ 清掃活動や教室・部室などの整理整頓に努めさせ、感謝の気持ちや公共心、公德心と共に気が付く心を育ませる。
- ④ 時間や提出期限の厳守、3点固定による生活リズムを確立させ、自己統制能力を育てる。
- ⑤ 学校行事、生徒会活動、HR活動、部活動などに積極的に取り組ませ、リーダーシップ・フォロワーシップの体得及びコミュニケーション力などの向上を図り、問題解決能力を育ませる。
- ⑥ 『道徳教育全体計画』に基づき、「あらゆる場面で道徳教育」との認識で教育活動を展開し、特に、生命の尊厳、個や人権の尊重について深く理解させ、自他共に思いやる心を育ませる。

- 北高生活の充実に関しては、保護者3.2、生徒3.1で良好な評価である。
- 「北高は学習と部活動の両立をよく図らせている」に対する評価は保護者3.1、生徒2.9である。また、職員の「『両道顕揚』の実現を目指し、学業と部活動の両立を目指す活力ある生徒の育成によく努めている」の評価が低い(2.8)ことから、生徒・職員にとって両立へ向けた取り組みは不十分であると感じていることがうかがえる。
- 容儀・服装指導に関しては、保護者・生徒ともに良好な評価(3.3)である。生徒の意識が高く、保護者も適切に指導されていると感じている。職員の共通理解のもとでの指導が奏功している。
- 清掃に関しては、取組に対する生徒の評価は高く(3.2)、保護者の評価も3.2であった。一方で「北高は掃除が行き届き、いつもきれいである」という設問に対する生徒の評価は2.9である。また、職員の評価も低く(2.6)、生徒自身に北高がきれいになったと感じさせる清掃指導をさらに徹底する必要がある。
- 学校行事・生徒会活動・部活動への参加に関しては、保護者・生徒ともに3.3で良好な評価である。部活動の時間が確保されていること、学校行事において生徒が活躍できる場面が多いことが評価されたと考える。ただし、「生徒会活動が活発である」という設問に対する評価は保護者3.0、生徒2.9であり、多くの生徒にとって生徒会執行部の活動が見えていないのではないかと考えられる。また、全員係制の活動を生徒会活動として意識していないことも考えられる。
- マナーや周囲への思いやりに関しては、保護者3.4、生徒3.3といずれも良好な評価である。特にバス乗車マナーについては、機会をとらえて教員からも生徒会からもマナー向上を呼び掛けている。

(2) 学びの体幹強化と進路実現

- ① 朝読や図書館利用促進などを通じて、生涯学習、生きる力の基本としての読書啓発を促進する。
- ② 独自教材の作成・活用や授業規律の徹底など、計画的で組織的な各学年の導入期指導を実施する。
- ③ 教材研究と授業法研究を徹底し、互観授業、生徒による授業評価も活用し、主体的・対話的で深い学びの実現へ向けて授業改善（授業のPDCAサイクルの確立）に取り組む。
- ④ スタ・サポ、定期考査、対外実力・模試、センター試験、大学入試問題などの分析・検証を通じて、授業改善（授業のPDCAサイクルの確立）に取り組む。
- ⑤ コツコツの精神を浸透させると共に、『生活の記録』を用いて自己管理能力、時間活用能力を育成し、3時間以上の家庭学習を確保させる。
- ⑥ 『進路シラバス』の活用、総合的な学習の時間、進路講演会などを通じて、進路選択能力の育成を図る。

- 職業についての指導に関しては、保護者・生徒ともに2.8となっている。1年次の総合的な探究の時間に文理選択と関連させた学部学科研究・職業研究を行っているが、今後は探究活動を通して、将来の職業やキャリアについてより考えさせるよう取り組みたい。
- 「家庭学習によく取り組んでいる」という設問に対しての評価は、保護者・生徒ともに2.9である。今後も、3時間以上の家庭学習時間を確保させる指導を継続的に行っていく。
- 進路情報の提供に関しては、保護者3.1、生徒3.2で良好な評価である。今後も学年に応じた適切な指導を行っていく。

(3) 保護者・地域の期待に応える学校づくり

- ① 保護者への連絡を密にし信頼関係を築くなかで、生徒が社会人として自立できるよう援助する。
- ② PTA活動への積極支援、保護者の来校機会の増設により、保護者との連携、相互理解を一層深める。
- ③ 面談活動や観察による生徒理解に努めるとともに、特別な配慮や支援が必要な生徒に対しては、カウンセリング委員会、特別支援教育推進委員会などの組織的な対応と支援を行う。
- ④ 安全で安心、より豊かな教育環境を提供する。
- ⑤ 少人数クラス編成、35コマ授業、海外語学研修、高大連携事業、長大生インターンシップ制度、北高祭、長崎北高ココデショ、青志寮、青志奨学金制度など、本校の特色ある教育活動をさらに進化させる。
- ⑥ Webページやメールメイト、『長崎北高NEWS』などを通じて、積極的に情報発信と情報公開に努める。

- 「北高は、保護者の意見によく対応している」という設問に対する保護者の評価は3.0である。今後も丁寧な対応を心がける。
- PTA活動の活発さに関しては、保護者の評価は3.1である。PTA広報委員会、PTAバザー、うどん炊き出し等に非常に協力的であり、スムーズに運営できている。地区PTA研修会の参加にも積極的な協力を得られた。
- 生徒の不安や悩みへの対応に関しては、保護者・生徒いずれも2.9とやや低い。今後も学期ごとに実施する悩み調査のほかに、相談室だより等を通じて対応の窓口を周知するとともに、教員自身が相談されやすい雰囲気をつくるよう努める。
- いじめの早期発見や防止に向けた対応に関する評価は保護者の3.0、生徒2.8である。今後も、職員の研修を深めて組織的に対応できる体制をつくっておくとともに、「学校いじめ防止基本方針」の保護者・生徒への周知を徹底する。

- 広報活動に関しては、保護者3.2、生徒3.1で良好な評価である。引き続きホームページのブログ記事の更新を積極的に行っていく。

4 学校関係者からの意見・助言等

- 「学校の柱」「北高ならではの」を明確にして欲しい。令和3年度の高校入試改革は中学校側としては「チャンスが増える」と捉えている。やがて中学校は急激な生徒減少となる。今後の北高への進学者の確保のため、北高ならではの特色について中学生にアピールをお願いしたい。
- 成績と学習時間の相関は学年からの説明のとおりで、時間の確保が課題と思われる。学校には生徒や保護者に学習時間の可視化と質問対応の充実を図りながら、生徒を育てる姿勢をしっかりと示して欲しい。
- 働き方改革は進められているのか。先生方が日頃の業務に余裕を持って生徒と向き合い、教科指導や進路指導に従事して欲しい。
- スマホ依存症の生徒が増えていると聞いている。社会情勢の変化の中で必要なツールになっていることは事実だが、モラル教育を含め学校での指導が大切になっているのではないかと感じる。
- 体育祭を5月の連休前に実施できないか。現状の9月開催では、夏休み明けから2学期当初の日程が窮屈で、生徒も先生方も大変なように思える。時期を移動することにより、もっと余裕がもてるのではないか。
- 文化祭の充実が素晴らしい。特に2年生の教室劇は各クラスの特色が出ていて、生徒が自主的に生き活きと取り組んでいてよかった。
- 生徒数が減り学校の特色を出すべきときに、「生徒を大切にする」「面倒見のよい学校」という伝わり方はとても大切である。

5 学校側の取組

- 職員全体で足並みをそろえて、本校の校是である『両道顕揚』を実現するための取組をさらに進めていく。学習・進路指導の充実と部活動の活性化に取り組むとともに、より細やかな生徒への対応に努めたい。学校関係者や地域住民のみならず、広く県民からも評価される学校作りに取り組んでいく。
- 地元で愛される学校作りを進めるために、地域との交流やPTAを始めとした関係団体との連携を一層強化していく。
- 広報は、北高の教育活動への理解を広げるだけでなく、生徒募集にも直結する大事な問題である。オープンスクールや学校開放などの工夫、学校案内や北高ニュースなどの紙媒体の改善、HPなどのWeb情報の更新など特に留意して「北高の魅力」の発信に努めたい。